

糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館



▲ ふるさと伝承館正面の消防器具

火災に水害、我々の生活を一瞬にして崩壊させる災害ほど恐ろしいものはない。しかしながら火も水も日々の生活には欠くことのできないものである故、つきまとってしまふものだ。

災害から我々の生活を守つてくれる、これが消防団である。平成8年11月、村の消防の歴史を振り返る「消防展」が開催され、私達は消防団のありがたさを改めて認識した。村を守り続けてきた消防団の歴史を今一度振り返ってみよう。

消 防 展

むかしの消防用具

腕用ポンプ

が村にもと痛感したそうである。

明治40年5月、下竹田に大火があり、この際近隣村の応援のもと火を消しとめることができた。区民はこの大火の時大いに活躍した消防ポンプを我

青年協和会がポンプ購入に動いた。そして明治42年、念願の腕用ポンプが購入され、4月には下竹田消防組（私設）が発会し、村を守るのに活躍した。

その後大正15年に二台目の腕用ポンプが導入されたが、

価格
九百九十円

放水距離
約50m

放水量
70石/H

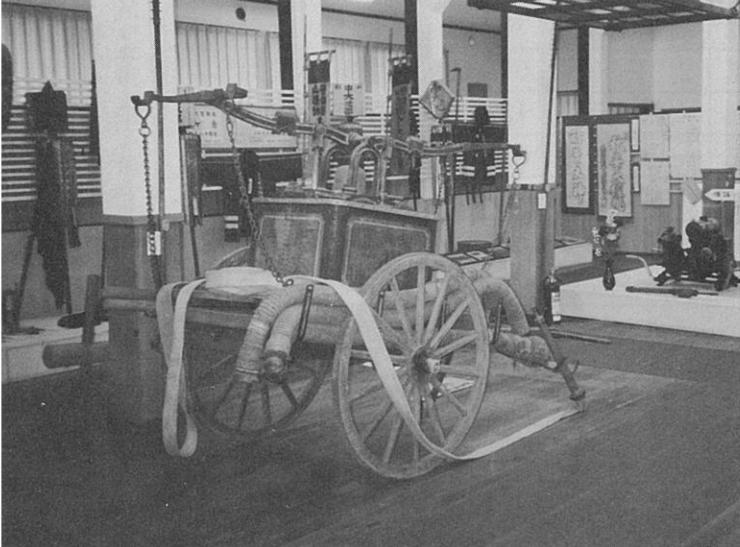
であったとのことだ。

以後、可搬動カポンプが昭和27年に導入され27年に導入され、

この迄、活躍したといふ。

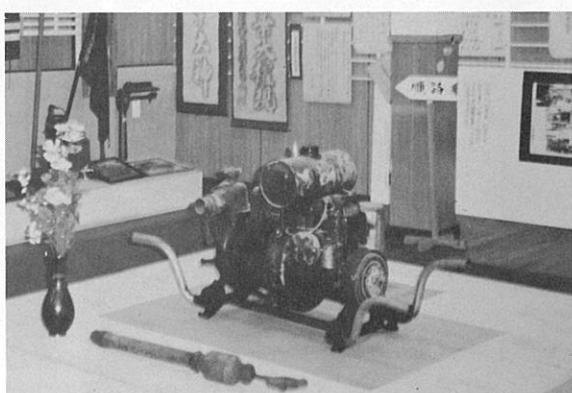
四四

その後、消防組賛否両論



▲2台目の腕用ポンプ（下竹田区）

動力ポンプ（トーハツ号）



▼下竹田区の動力ポンプ

山形消防の歴史

明七

二月松本町でも「松本消防組」を設置し、六番組四

二五人の組織とした。一

月筑摩県は「火災の節消防規則」を布達。各大区（山形村は第四大区）毎に五〇人単位で常備員一六組を作り、「水の手」・「こわし方」に分けた。

二七 勅令により「消防組規則」

を制定。これを受けた長野県では「消防組規則施工細則」を制定。

麻績村など筑北五村で全村組織の消防組が発足。

四〇 五月下竹田に火事あり。

近村の応援を受け、区民は消防器具設置の必要を痛感。

四一 駐在巡查の勧誘で、竹田

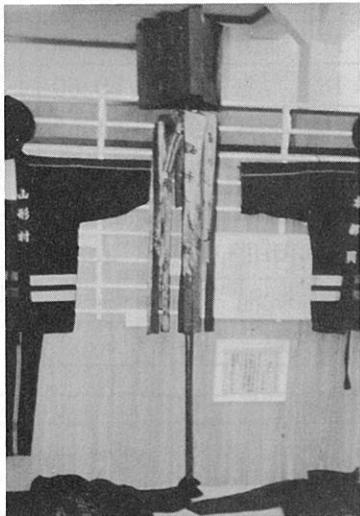
動力ポンプが要求される時代となり、昭和27年に村が二台購入し、一台は優先的に下竹田分団へ、他の一台は上大池分団、中大池分団何れかに配給するかで手間を要したが、上大池分団に配給された。動力ポンプは威力があり、最初の出動は波田村で、波田村住民に感謝を与え、この年波田村でも購入したといふ。

四二 一区民総会の決定により、

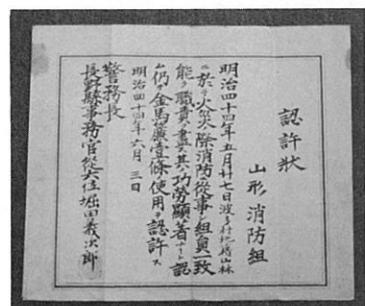
長野県内の商店よりポンプ購入、青年会から下竹田消防組（私設）へ引継、四月発会式を行う。

四三 その後、消防組賛否両論

金馬簾



▶ 金馬簾



◆ 金馬簾の使用を認証する認証状

一. 会田村全村
二. 入山辺村
三. 波田村中波田
四. 山形村下竹田
八五條

大正7年1月調べによる
松本署管内消防組計31組中の上位4組は次の通り

裁ち、纏の飾りとして垂れ下げたものである。普通は表が白、裏が赤であるが、金馬簾は表が銀、裏が金である。消防組出動の際、特別功勞顯著な消防組に對し一條の使用を認許された。

従つてこの金馬簾の数の多い事は消防組の誇りとされた。

その後ポンプが導入され水を使うようになると、分団を示す高張・長旗・水源を示す高張提灯・鐘などに変化した。現在となつては、纏（まと）いと団旗、ポンプ積載車くらいになり、近代的消防の姿となつた。

昔の消防具

昔の消防器具は類焼を防ぐ為のものが多かつた。指又（さすまた）・梯子（はしご）・薦口（どびくち）・掛矢（かけや）・鋸・斧などで、建物を破壊して火の勢力を衰えさせる方法であつた。

その後ポンプが導入され水を使うようになると、分団を示す高張・長旗・水源を示す高張提灯・鐘などに変化した。現在となつては、纏（まと）いと団旗、ポンプ積載車くらいになり、近代的消防の姿となつた。

殉職団員



昭和20年10年4日から降り出した雨は9日迄降り続き、各河川は大水害にみまわれた。この防災に上大池警防団が出動したが、団員の中村憲治、中川進団員は不幸にも濁流に呑まれ殉職された。

山形の消防を語るにこの二人を忘れてはならない。

六三 山形消防会館解体。
消防団発団。

平成五
四月松塩筑・南安にまた
て常備の「山形消防署」創設。

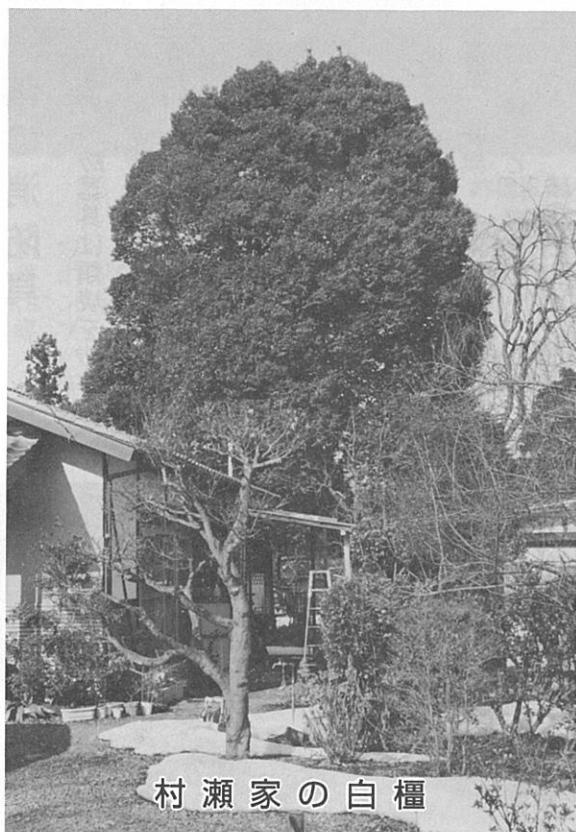
十三 上大池・下竹田両消防組合併。「山形村消防組」へ。
十五 村の消防組連合会発足。
昭和三 六月 下大池消防組（私設）創立。
十九 山形消防会館創設。
二十四 四月山形消防組解消、「山形警防団」結成。防空演習も重要な任務となる。

四五 小坂消防組（私設）創立。
大正三 二月 中大池消防組（私設）創立。
十六月 「上大池消防組」公設の指令受ける。
昭和三 六月 「上大池消防組」公設消防組設置を村会で可決、県知事の認可を得て下田消防組は「山形村消防組」として公認された。

歴代消防団長

代	氏名	任期	代	氏名	任期	代	氏名	任期
1	村上 純三	S2-13	9	宮沢 千秋	29-32	17	稻田 富広	57-58
2	永田恒三郎	14-15	10	稻田 涼	33-35	18	大池 義信	59-60
3	大池 長司	16	11	百瀬 茂水	36-37	19	唐沢 長夫	61-62
4	永田 弘	17-18	12	上條 勇一	38-40	20	中村 昭三	63-H1
5	山口 彌谷	19-20	13	唐沢 藤美	41-44	21	鈴木 利喜	H2-3
6	鈴木 芳美	21-23	14	平沢 彦義	45-48	22	中川 純治	4-5
7	百瀬千代平	24-25	15	百瀬 伝	49-52	23	大池 良作	6-7
8	稻田 嗣夫	26-28	16	中村 久人	53-56	24	越 英吉	8-

任期が年度途中の場合は適時切り上げ・捨てしました。



村瀬家の白檜

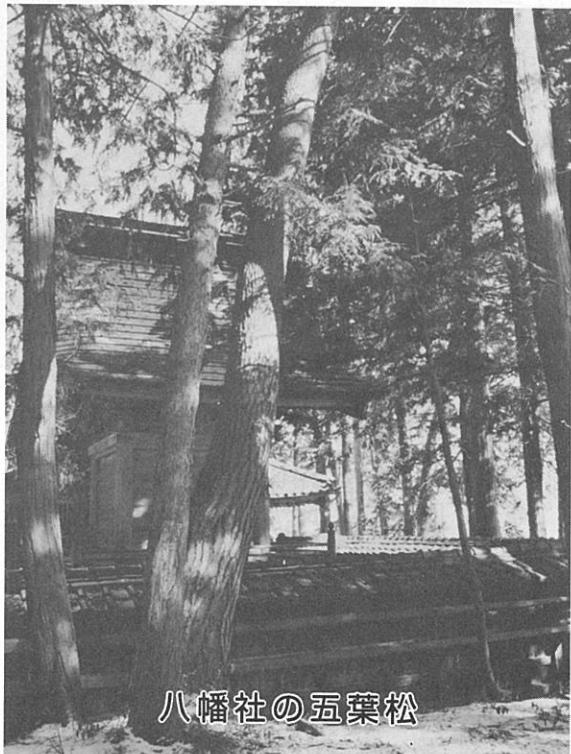
村瀬家の白檜

←

樹 高 約三〇m

胸高周囲 二五八cm

ブナ科の常緑樹で関東以南の暖地では普遍的に見られる。葉の裏が灰白色なのでシラカシの名があるが、幹が黒いのでクロカシとも呼ばれる。防風樹として人家の周辺に植えられことが多いが、材は堅く用途がひろい為珍重される。村瀬家の白檜は松本平において例を見ない程大きく、貴重な木である。



八幡社の五葉松

八幡社の五葉松

樹 高 約三〇m

胸高周囲 二二〇cm

八幡社の神殿の裏側にあり、ヒノキに囲まれた中に一本だけ植えている。大きなものは樹高三〇m、直径一m位になる。枝は横に張り出し、葉は短枝に個づつき、長さ二~六cmの針状でややねじれる。
本州の東北南部以西に分布する。材は良質だが生長は遅い。

【訂正】糸車12号 上竹田四ツ谷下常会の祝殿は上條・一條同姓の祝殿であると指摘をうけました。